

第3回 新町将来構想策定小委員会 会議次第

日時：平成15年5月13日 午前10時～

場所：すこやかセンター伊野 大会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 会議録署名委員の指名

4 議 題

<協議のテーマ>

「新町において合併後10年以内にこれだけは実現したいことについて」

「新町において住民相互の交流や新たなまちづくりを推進するために実施する新たなソフト事業について」

5 その他

- ・第4回新町将来構想策定小委員会の日程について

開催日時：5月30日（金） 午後4時から

場 所：伊野町立公民館 2階大集会室

- ・その他

6 閉 会

新町将来構想策定小委員会各委員の意見の要旨

伊野町の委員さんのご意見

- ・伊野町には、誇るべき伝統産業があるというが、どのように残していくか案をもった人がいない。
- ・伊野町には、紙会社など伝統産業があるが、若い人が、入社することも少なく、県外に出ていく。紙会社の汚れた水の垂れ流しなどの問題もある。30数社ある紙会社の合理化も必要だし、行政が、もう少し、企業の育成に力を入れ、魅力のある産業にする必要がある。
- ・現在の伊野町のまちは魅力がない。若い人は寄ってこないのが現状で、見直していかなければならない。
- ・今の老人施設では不足する。各地区に、簡易の老人ホームを作る。
- ・親と一緒に住める状況づくりが必要。情報や精密機械などの技術が習得できる理工系の専門学校を作る。そうすることによって、企業誘致も可能となるのではないか。
- ・伊野町には、文化の発祥拠点となるものが少ない。3町村で一番遅れている。
- ・音竹城があったところに城を作ってハイキングコースを整備する。ハイキングが終わったら、地元温泉とタイアップして温泉に入ってもらおう。
- ・仁淀川の水が豊富なところに、キャンプ村を作って舟を浮かべる。
- ・役場の職員については、優秀な人材を引き上げる人材登用制度が必要。
- ・さくらんぼの観光農園が面白い。本川での気温差を利用したりレー栽培も可能性がある。
- ・仁淀川を売り込む。短期間のイベントではなく、県外では、芝桜を観光の目玉にしているところがあるが、一定期間、県外から観光客が来てくれるようなものを作っていくことが必要。
- ・観光協会を一本化し、観光マップを作る。

吾北村の委員さんのご意見

- ・挨拶など基本的な生活習慣の充実についての記述が必要。
- ・新町の重点プロジェクトに、スポーツや体力づくり、食生活の改善など健康づくりの推進をいれるべき。
- ・健康で介護を受ける必要のない元気老人を作っていく。
- ・吾北、本川の住民の合併後の地域の寂れという不安に対して、安心させるために、将来構想にポイントをもった説明書が必要。地域地域の均衡のとれた発展が必要で、それには、それぞれが取り組んできたことを新町でも取り組んでいくことが必要。
- ・吾北の追手前分校が存続するよう力を入れてほしい。
- ・194号線が通行止めになった時に、通行できるよう、新たに縦貫道路を抜くことができれば。
- ・伊野町には、スーパーはあるが、専門店等が少ないので、高知市までいかなければならない。ポリュームのあるまちづくりが必要。
- ・1人暮らしのお年寄りが増えている。ボランティアをする人を増やす必要がある。
- ・魅力あるまちを考えるため、Iターンした人に意見を聞くことも必要。

本川村の委員さんの意見

- ・本川の観光を如何にするのが課題である。山岳観光が中心となるが、そのためにも、観光バスが入れるように石鎚公園線等の拡幅が必要。観光客に、緑を見せ、それによってお金が落ちるように知恵を絞るべき。
- ・伊野町を商業、工業のゾーン、吾北村を農業のゾーン、本川村を観光の重点ゾーンと位置づけ推進する。施策の企画や情報発信などは、伊野町が中心でなければならないことはない。
- ・高齢者は、診療所の存続を望んでいる。また、仁淀病院から、月に1回程度でよいので専門医の出張診療を望んでいる。
- ・越裏門、日ノ浦の休校を合宿等で活用してはどうか。
- ・本川には、御神楽など他に誇れる無形文化財がたくさんある。地域の文化を観光資源として活かしていくため、行政の窓口（体制の充実）をつくる必要がある。
- ・本川村の人は、疾病の予防に取り組む意識が薄い。もっと予防にお金をかける必要がある。
- ・将来構想の記述は、住民がわかりやすく、夢のもてる内容にしてほしい。194号線で一つに結ばれる今回の合併は、本川にとってはいいチャンス。恵まれた合併である。それぞれの町村で共通して、なるほどと思えるような文章にしてほしい。
- ・医療については、本川、吾北の住民は、高知市の医療機関に行っているが、仁淀病院が良くなれば、わざわざ高知市内まで行く必要がない。高知以西の住民の医療センターとなれないか。
- ・特別養護老人ホームについては、30～40人が待機待ちの状態。増床が必要で、費用を、介護保険料だけでまかなうのではなく一般会計の負担が必要。若者の雇用にもつながる。
- ・新町では、風力発電、太陽エネルギーも考えなければならない。
- ・本川村は、8つの発電所があり、水を最大限活用している。徳島の水瓶となっており、徳島県に対して宣伝することにより、大きな財産となる。
- ・水の活用、水辺の活用を考えなければならない。
- ・今から20年すると山の木が育ち、切れるようになる。林業は、搬出経費が問題なので、土建業と林業がタイアップして林業の改革を行うことにより可能性がある。
- ・吾北村、本川村に住むことによって授業料がタダになるなどメリットがないと残っていくのが難しい。
- ・木の香温泉のホテルの改修。
- ・瓶が森の途中に、駐車場を作って週末は電気バスでピストンする。環境保全をするまちとして全国に発信できるのでは。
- ・木は手を加えて、付加価値をつけて売り出していけば、可能性はある。
- ・技術や技能を持ち、田舎で暮らしを望む人たちがイターン、Uターンしやすいように作業場を整備し提供することも必要でないか。